

避難所運営訓練がありました



先週の土曜日(13日)の午前中に、台場小学校で避難所運営訓練がありました。この訓練は、大きな災害が発生した際の避難所機能が発揮されるよう、関係主体(地域住民、施設管理者(学校)、区職員等)で構成する避難所連絡会議を中心に、毎年実施するものです。構成する町会・自治会は、北品川一丁目町会、八ッ山町会、東品川一・三町会、北品川アパート自治会、北品川第二アパート自治会、東品川第四アパート自治会、天王洲団地自治会、東品川7棟自治会になっています。(品川第一地域センター管内)

この運営訓練は、毎年実施しています。今年度、台場小は展覧会を開催する都合上、1週ずらしましたが、12月初旬に、おおよそ区内一斉に行われます。土曜日と日曜日が隔年で、土曜日にやる年は、児童(今年度は6年生)も参加します。保護者のみなさんは、このような区と地域・学校が協働して実施するこのような訓練があることをご存じでしたか?

上の写真は、体育館で行った訓練の様子です。各町会・自治会がお声掛けをして参加して下さった地域のみなさんと6年生と一緒に、体育館で行いました。この規模でも、体育館内一杯の人で埋まった感じがします。ここ最近でも、青森東方沖の地震が発生するなど、大きな災害がいつ起きてもおかしくないと言われています。品川区では、上に書かれた町会・自治会の避難所として、台場小学校を指定しており、今回の訓練は、そのような緊急時に備えたものという位置付けです。

15年前の東日本大震災を思い出すと、都内では建物や道路などでは大きな被害は少なかったものの、交通網が止まり、「帰宅難民」という人たちが町中にあふれたという記憶がよみがえります。「首都直下」などという災害が発生すれば、自宅に留まることができない多くの方々が避難所を頼ってくる事態も想定できます。いずれにしても、どのような事態になり、どう乗り越えていくかは、行政と地域全体で考えていかなければならない大きな問題でしょう。まずは、このような訓練に限らず、地域の方々や学校関係者が、顔と顔でつながる円滑な人間関係を築いていくことが重要だと、この訓練を通して改めて思いました。

6年生は、一生懸命訓練に参加をしてくれました。6年生のあいさつの中に、「いざという時に、地域の方々と協力して、避難所で力になりたいと思いました」「本当に起きたら困るけど、今日の訓練を生かせればいいなと思いました」といった言葉がありました。地域のみなさんとのつながりが、また一つ深まった時間になったと思います。